

秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第3号

発行日：2012年3月20日
発行者：美祢市自然保護協会
美祢市秋吉台管理事務所内
TEL:0837-62-0640

秋吉台憲章

- 秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。
- 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。



キバナノアマナ

秋吉台科学博物館在職中の思い出

私の在職中で最も印象深く脳裏に残っているのは、あの“帰り水”でのボーリング調査である。

私は九州大学在学中に鳥山隆三教授の下で古生代フズリナ化石を勉強した。“フズリナ化石”と云うと国内は勿論国際的にも秋吉台産が最も有名だ。この研究の道筋を作られたのが天才学者といわれた小沢儀明博士の“秋吉石灰岩層の大規模逆転構造”の発見だった。しかし博士は不幸にして日本列島の成因に興味を持たれ乍らも33才の若さで病歿された。後継者の小林貞一東大教授は1941年“佐川造山輪廻と日本列島の成因”の中で秋吉造山運動という観点から日本列島の成因を考えられた。私は当時秋吉造山運動に続いて起ったとされる岡山県・大賀造山運動の実態をフズリナ化石を使って解明すべくこの地を調査していた。折しも1958年長谷川美行博士によって、小沢博士が秋吉石灰岩層の広域逆転の証

明地域とされていた秋吉台“帰り水”地域での逆転構造を否定する解釈を発表された。私は果して広域逆転構造が存在するか否か一生かけてでも証明してみたいと思い秋吉台科学博物館へ勤務する決心をした。最初地表調査に時間をかけた。しかしこの問題解決には最終的にボーリング調査しかないと思った。経費節減の為同僚の杉村昭弘君、配川武彦君、途中中村久君の力も借り、あの深いドリーネの底にテントを張り、ボーリング機材を全て自分達で運び込み運転し、暑い日寒い日、時には台風で機械が水浸しと、一喜一憂し乍ら二年有余調査に明け暮れた。ボーリング岩芯中に含まれるフズリナ化石を分析の結果、上部に古い地層下部に新しい地層があり逆転が証明された時の感動は今でも忘れない。博物館の同僚、関係者の皆様には感謝を致します。今でも時々車で“帰り水”を尋ね当時を懐しんでいる。

秋吉台科学博物館元館長
理学博士 太田 正道

— 市内文化財の探訪 —

自然保護協会の活性化を目指し、本年度から自然環境に関する調査・研究部会が立ち上げられた。最初の活動として11月19日(土)に、秋吉台周辺の「自然環境パトロール」を兼ね、天然記念物を中心に文化財の探訪が企画され、11名が参加した。

今回は、青景早二のクロガネモチ、赤郷の三島神社の社叢、銭屋のハゼの木など9箇所天然記念物と長登銅山文化交流館を訪ねました。いずれの文化財も、保存状態は良好で、説明板も設置されていた。

秋吉台山麓周辺には、弁天池、下嘉万江良の白水池、寺山の穴、青景銀山跡など数多くの貴重な未指定の文化財が存在している。これら文化財の中には、カルスト地形特有のカルスト湧水や洞窟があり、今後、ジオパークの見学箇所として魅力ある貴重な存在であり、見学コースに組み入れるとともに、説明板の設置が望まれる。また、地域の人たちにも関心を持っていただき、観光客の受け入れ態勢を整備していく必要もある。

今回とは別に、先に長者ヶ森周辺の自然環境パトロールを実施した際、台上にクヌギの木が植樹されていたこ



とやセイタカアワダチソウが繁茂している状況が確認されたので、今後どう対応していけばよいか検討する必要がある。また、長者ヶ森北東の台上に新しいジバスができていたのが発見されたので、危険防止の柵の設置を美祢市に要望することにした。

自然保護のためにはまずは現状の確認、また、自然保護協会で改善できることは自ら対応していく姿勢が必要かと思えた。自然保護協会としては、調査・研究部会の活動を今後一層推進し、さらには関係機関との連携を図り秋吉台の自然環境の保全に努めていきたい。

自然保護協会 会長 河本 芳久

—平成 23 年度活動紹介—

会員研修 佐賀県唐津市方面 平成 23 年 10 月 16 日 (日)



10月16日、佐賀県唐津方面。参加者27名。当日は好天に恵まれ快適なバスの旅であった。

主たる視察地は、虹の松原、名護屋城跡、玄海エネルギーパーク。

虹の松原は唐津湾沿岸約5kmの帯状に広がる日本三大松原の一つ。17世紀初頭、唐津藩主寺沢広高が、新田開発の一環として、防風防砂林として植樹。これが手厚く管理され今日に至っている。

名護屋城は、秀吉の文禄・慶長の役に際し築かれた国の特別史跡指定である。

城跡近くに建てられている博物館は、韓国との文化交流も深めている。

玄海エネルギーパークは、今は大きな問題を提起している原子力発電に関するテーマパークである。

この度の研修は、平素は観光客受け入れ側にいる我々には、よい勉強になった。 理事 金石 弘士

役員研修 周南・下松・光市方面 平成 23 年 11 月 25 日 (金)

朝から好天気にも恵まれ、次の研修地を見学した。参加者は事務局を含めて15名。

【八代鶴飛来地】

八代盆地は、国の特別天然記念物に指定されているナベヅルが越冬する本州唯一の飛来地である。

鶴の飛来数は年々減少し、見学時は5羽が飛来しており、2羽と3羽の2群で別行動をしていた。

鶴の習性を知り、鶴の餌用の稲の植え付け、雑草の草刈りをして虫が集まりやすくするなど保護活動も大変だと監視員さんは話していた。

【光市の海商通り】

光市では、普賢寺を核とした歴史的町並みを「海商通り」として保存することを目的に「保存地区」を選定し、対象地区の道路に面した建造物の修復、修景に対し、補助を行う「光市町並み保存事業」を実施している。

【笠戸島と外史公園】

下松市南部にある笠戸島は、大自然の風光に恵まれ、瀬戸内海国立公園の一部となっている。昭和45年(1970)笠戸大橋がかけられ、島への交通が便利になった。

笠戸島ハイツ前の小高い丘に長岡外史公園があり、御影石で造られた長岡外史像がある。長岡外史は、日本の航空事業の発展とスキーの普及に貢献した人である。

昼食は笠戸島ハイツでとり、ヒラメのお造りを美味しくいただいた。

午後は米泉湖(末武川ダム)に寄り、詩・短歌・俳句などが刻まれた文学碑プロムナードを散策した。

理事 井上 行敏



書道コンクール・絵画コンクール金賞受賞作品



別府小6年 福田 歩未



美東中3年 堀 和華



大田小6年 田中 克征



秋芳北中3年 鮎川 優

平成24年度 会員募集

年会費 個人 一口 300 円

皆で美祿市の自然を守りましょう。

お申し込みは秋吉台科学博物館内

TEL(0837)62-0640 まで